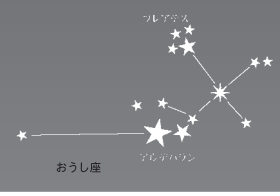
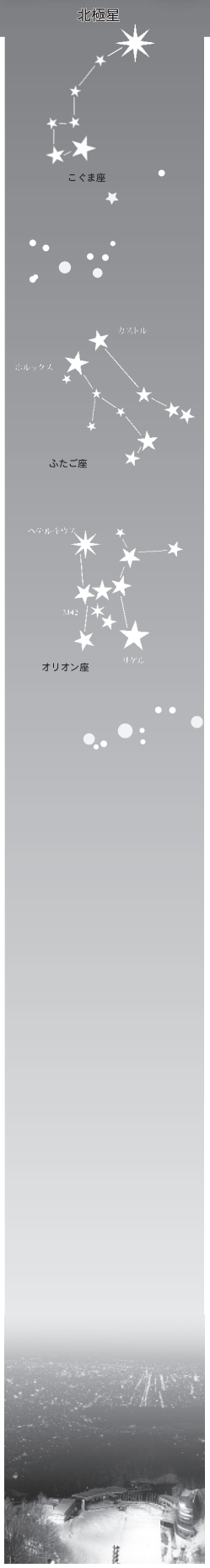



ー医師会長エッセイー

# ポラリスを仰ぐ北の大地から




## 田舎における雑感

芦別市医師会　会長　藤嶋　　彰

我が芦別も旧産炭地と同様に人口減少、医療過疎の状態ですが見方を変えると、自然に恵まれていると、まあいいか？

建物が少なくなり山桜も見られるようになりました。

春には焼き根曲り竹と若い小さなヤナメのフリッター、９月頃には天然の舞茸の土瓶蒸し、10月から天然の鴨と美味な食材が多いのが良いところでしょうか。

竹内まりやの『人生の扉』にある満開の桜や色づく山の紅葉をこの先いったい何度見ることになるだろうとの歌詞に同感し、一年また一年と過ごしています。

## 北空知における地域医療

深川医師会　会長　山崎　　充

深川市は人口およそ23,000人、基幹産業は農業で米作が中心である、石狩川を中心に豊かな風景が広がる田園都市です。交通の便は良く札幌までJRで１時間10分で通勤、通学されている方もいます。

深川市を中心に妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田町と１市４町がいわゆる北空知と呼称されている地域です。全人口４万弱で、この地域が深川市立病院を中心とした北空知２次医療圏を形成しています。

２次救急病院は、深川市立病院１ヵ所です。地方の医療圏はどこも同じ悩みをかかえていると思いますが、北空知も同様で基幹病院である深川市立病院の医師不足が一番の問題です。深川市立病院の固定医は20名で、この人数で365日24時間体制の救急を担い、さらに各科それぞれ待機がありその忙しさは限界に近いと思われます。

深川医師会もわずかの支援ですが、開業医が日曜日の日中の救急当番に市立病院に出向しています。

現在北空知医療圏で大変困っているのが深川市立病院に整形外科の固定医不在であることです。整形の救急は滝川、砂川、旭川の救急病院にお世話になっております。

厳しい医療環境は民間病院も同様で、市内の300床の老人病院では当直が３日に１度という激務になっています。

あらゆるルートで医師を募集しても病院勤務の医師はなかなか獲得できません。

そういう状況の中で医師派遣会社が企業として成立し、業績を上げしかもその財源は当然診療報酬から支払われることを考えるとどうにもやり切れない気持ちになります。

最後になりますが北空知は農業が基幹産業ですのでTPPにより地域経済が打撃を受け、そのためにさらに地域医療が衰退することがないことを願い稿を終えたいと思います。